

そらごう

FREE



2023年11月号 発行：社会医療法人社幸会 行田総合病院



「ことわらない」を合言葉に

救急総合診療科

▶▶▶ 濱田 浄司

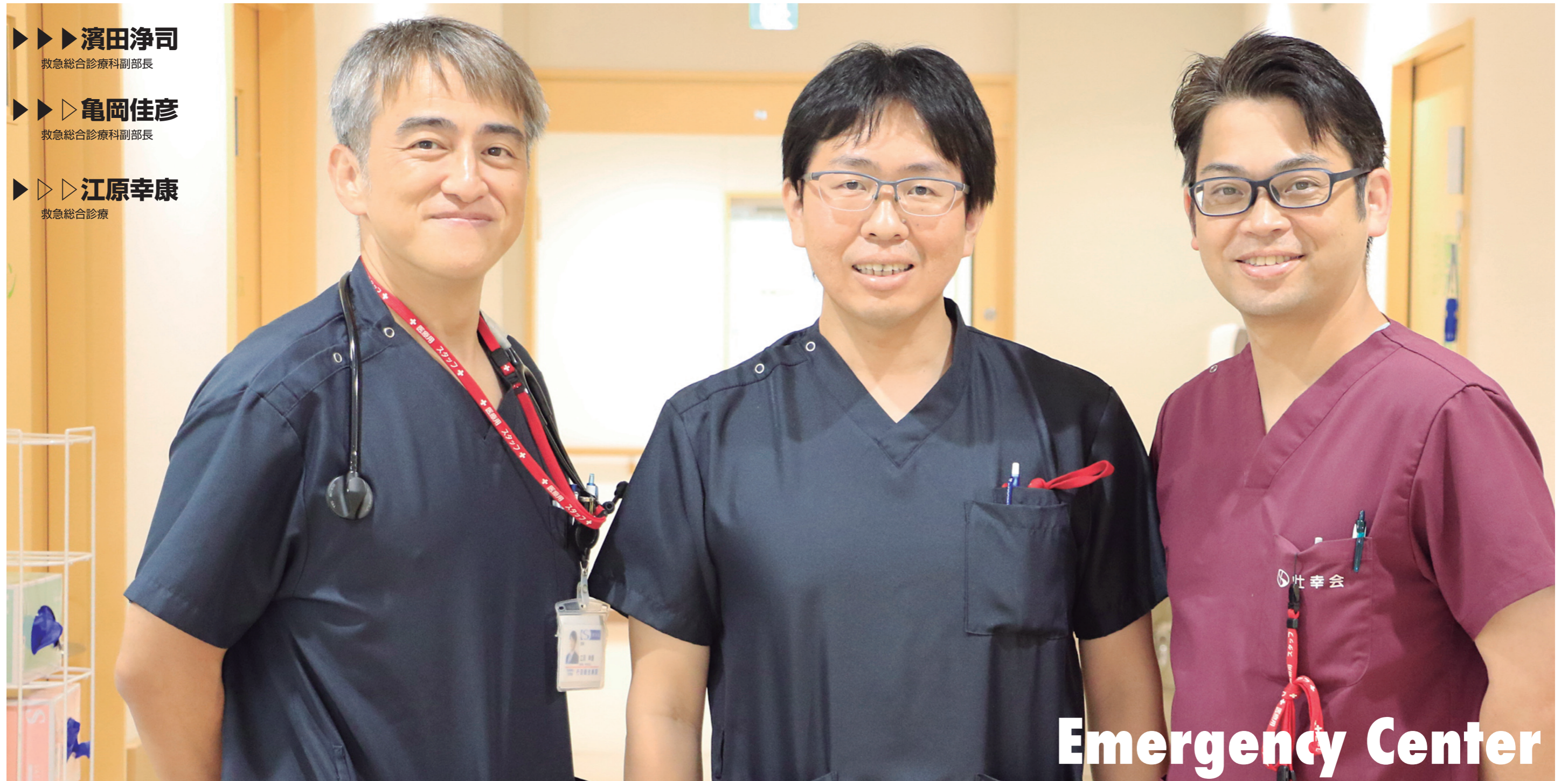
救急総合診療科副部長

▶▶▷ 亀岡 佳彦

救急総合診療科副部長

▶▷▷ 江原 幸康

救急総合診療



Emergency Center

24時間365日の

「じゃならぬ」を合言葉に。

救急センターは、地域の中核総合病院の救急窓口として、当院全科・全部署・全職種の協力の下、埼玉北部医療圏で発症した2次救急患者さんを幅広く、24時間365日いつでも受入れることができるよう、最善の努力を重ねています。

センターの顔を担うこととなる「救急総合診療科」という科名には、より一層「治療深識」なセンターを目指す、という想いが込められています。

所属には、外科医としての肩書きも持つ濱田副部長、放射線科医としての肩書きも持つ亀岡副部長、総合内科医としての肩書きも持つ江原医師が常勤として従事しています。患者さんの受入れ体制をより強化し、地域の皆さんと病院との時間的距離を縮めることで、医療が1秒でも早く介入できるシステム作りには各セクションと共に臨み続けています。

行田市の医師会や医療機関、消防本部との連携のもとより、院内各科・部署との連携を保ちながら、24時間体制で救急診療に対応しています。

スタッフは、常勤救急医3名を中心に外科医、脳神経外科医、循環器内科医、呼吸器内科医、消化器内科医、泌尿器科医、

整形外科医から構成され、これに小児科医、放射線科医、病理診断科医、麻酔科医などが診療に参加しています。

夜間や休日についても内科系2人、外科系1人、研修医1人の4人が当直するなど、24時間365日、救急患者さんを受け入れています。さらに、月曜と金曜の夜については、医師不足が深刻化している小児科にも対応できる十分な体制を整えていることも、当センターの特長になっています。また、災害拠点病院として、インフラの整備やマニュアル作りなど地域の災害医療にも取り組んでいます。

医師は救急隊員から患者さんの状況を聞き、どんな疾患なのかをある程度推定し、関連する診療科の医師と受入れを準備。患者さんが運びこまれると、研修医と救急医が初期診療と応急処置を行い、落ち着いたところで、各診療科の病棟に入院。重篤な患者さんはICUで集中治療を行います。救急の現場では患者さんの病態が劇的に変化するので、秒単位で診断、治療を行う必要がありますが、当院には「ことわらない」という昔からのモットーがあり、その想いを全スタッフが共有しています。

救急スタッフと待機医師、それを引き継ぐ専門治療スタッフとの連携がスムーズであるため、迅速で的確な対応ができる体制を構築しています。

▶▶▶ 霜田佳久

臨床検査技師

▶▶▷ 平澤 凧

救急棟看護師

▶▷▷ 小林徹也

診療放射線技師



Co-Medical Staff

「いっしょに」を合言葉に。
救急医療に携わるスタッフ。

救急センターに運ばれた患者さんは、救急外来の看護師によって初療室に案内されます。到着と同時に救急医師と研修医によるファーストタッチの前後に必要な診察放射線技師によってCTやMRI、XPなどの画像検査、臨床検査技師によって血液検査や尿検査、細菌・ウイルス検査などが行われます。

迅速に行われた検査結果を参考に医師が必要に応じた処置を施し、入院になる場合には、救急外来と各病棟の看護師が連絡を取り合っており、患者さんをストレッチャーや車椅子で搬送します。

入院されてからも必要な検査は、診療放射線技師や臨床検査技師によって行われ、臨床工学技士が正確に医療機器を動かし、薬剤師によって薬の正しい用法・用量が守られています。

また、早期からリハビリテーションを行うため、各病棟には理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）で構成されているリハビリチームが配置されています。さらには、管理栄養士が全ての入院患者さんの栄養管理や栄養指導を行い、看護助手は隅々まで心を配りサービスを提供しています。

2021年9月から、夜間の緊急受入れを簡潔にするために救急専用病床が新しくなりました。これにより夜間の緊急入院や診療終了間際の夕方に外来を受診した患者さんの入院受入れがよりスムーズになりました。

循環器疾患・消化器疾患・泌尿器疾患・脳神経外科疾患・内科疾患など、様々な患者さんに対応するために、病棟では勉強会を実施し看護の知識や技術の向上に努めています。

救急専用病床は、全身状態がより安定し一般病棟での治療につなげるために、前出の多職種との協働による全身的回復およびリハビリテーションの促進に取り組めます。さらには回復後を見越した退院調整だけでなく、様々な社会背景のある患者さんやご家族との関わりなどから、高度な総合力をもって一貫した全身管理と看護管理を行っています。

重篤な患者さんを前に緊張する場面もありますが、救急専用病床での経験は、看護師としてもコメディカルとしても大きな力をつける機会であることはまちがいありません。

様々な職種スタッフが綿密に携わっている救急医療。全ては地域の皆さまの健康を守り、安心して未来を紡ぐための努力であると全員が胸に秘めています。今後とも宜しくお願いたします。



PHOTO / 1. 救急センター内の加療室。2. 処置中の濱田医師。3. 救急隊員から患者さんの情報を聞き取る看護師。4. カルテ記載中の江原医師。5. 看護師に指示を出す亀岡医師。6. 研修医に指導中の亀岡医師。7. 帰署につく救急隊。8. 患者さんの受入準備をする看護師。9. 入院する病棟へ向かう患者さんに乗せたストレッチャー。10-11. HCU(2F)。12. 救急専用病床。13. 整形外科病棟。14-15. 手術室。

救急棟

2021年7月に開設された救急棟。現在では、年間6000件を超える救急車の受入れに対応するために、救急棟には、「救急センター」「救急専用病床」「HCU」「整形外科病棟」「ハイブリット手術室」が設置され、埼玉県北部地域の広範に渡る救急医療を支える体制がより強化されています。

1F 救急センター

救急センターでは、「埼玉県救急搬送困難事案受入病院」として新型コロナウイルス感染症の流行拡大期においても「ことわらない医療」を継続するため、遠方からの発熱患者さんの受入れにも積極的に対応してきました。

5類となった現在も発熱患者さんとはとても多いです。救急総合診療科の医師、救急外来の看護師により適切な診療・看護ケアを実施し、必要に応じて院内に在籍している各診療科の専門医、臨床検査

器内科・外科など、主に重症の緊急入院へ対応するために新設されました。

当該病棟の特徴の一つには、「入院時重症患者対応メディエーター（社会福祉士）」が配置されていることにあります。突然の病気で救急搬送されて重篤な状態に至った際には、患者さんご家族は状況を理解することがなかなかできない場合が多く見受けられます。不安を抱えたご家族に対して「患者さんの状態を理解してもらうこと」「治療方針などの意思決定」「心理的サポート」などを行っています。

また、当該病棟の看護師も病状の変化を早期に発見できるように、疾患・治療についての知識や情報をスタッフ内で定期的に勉強会を開催し、常時対応できるように研鑽しています。

3F 整形外科病棟

救急棟3階は、整形外科の患者さんを専門に診る病棟です。行田市は近隣も含め他のエリアと同じく高齢者が多くを占める地域です。日常生活の中で起こり得る疼痛や転倒による骨折などは数多く発生します。当院でも救急搬送されてくる

技師、臨床工学技士、診療放射線技師、薬剤師などで構成される多職種によるチーム医療を実践しています。

2F 救急専用病床

救急棟2階にある救急専用病床は、救急患者さんのために使用される病床です。主に夜間の救急外来もしくは夕方の通常診療の終了間際に受診された重症患者さんを受入れている病棟です。

救急専用病床では、様々な疾患の患者さんが入院するため、担当する看護師やスタッフも幅広い対応が求められます。病棟内で勉強会を実施し知識や技術の向上に努めています。また、患者さんは原則翌日には入院した原因となった疾患を専門に診る病棟へ転棟していきます。

2F HCU

救急棟2階にはもう一つ機能があります。それはHCU（高度治療室／ハイケアユニット）です。脳神経外科・循環

患者さんの内、上位3位に入っているほど頻繁な症例といえます。

このような地域の現状に対しても即応可能な体制とするために、救急棟を構成する機能の一翼を担っています。

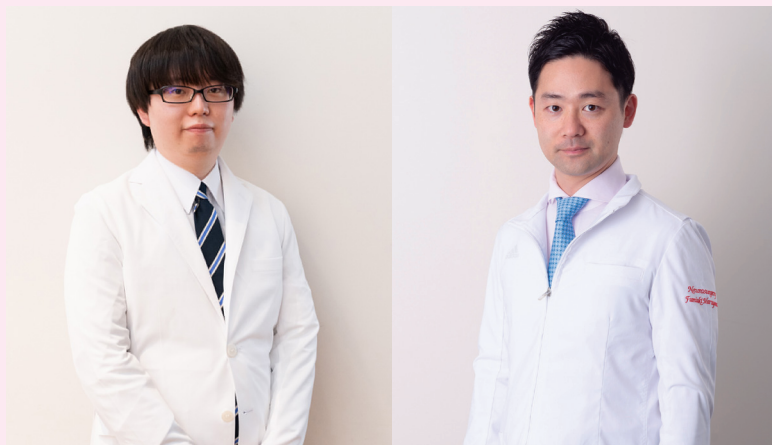
4F 手術室

救急棟4階には、ハイブリット手術室を含めた6つの手術室があります。腹腔鏡や手術支援ロボット「ダヴィンチ」、電子顕微鏡など、多くの精密医療機材を使用し手術を実施しています。

当院には常勤麻酔科医師が6名在籍しており、可能な限り昼夜問わず緊急手術ができる体制を構築しています。手術室の看護師は、周術期医療チームの一員として専門性の高い看護を提供するために日本手術室看護協会などの院外研修へ参加しています。

また、術前・術後の病室訪問を行っています。術前訪問では安全な手術管理、患者さんの不安軽減をできるように努めています。術後訪問は術中に行った看護の評価、病棟へ申し送りをした継続看護の状態確認等を次の看護への反映のために実施しています。

脳神経外科 頭痛外来 行田クリニック A 館 2F



2023年7月～

脳神経外科 頭痛外来を開設しています。

毎週月曜午後と水曜午前に脳神経外科では頭痛外来を開設しています。月曜午後は岩田医師(写真左)、水曜午前は丸山医師が担当。社会的影響が大きく、国民病とも言われている頭痛。その種類や性状を専門的な観点で問診、診断し、個々に合った適切な治療を行っています。お気軽にご相談ください。

救急勉強会 当院救急棟 2階 会議室



2023年7月25日(火)

救急隊員向け勉強会

7月から3年ぶりに対面とZoomでの同時配信を開催しています。9月19日は『医師に聞いてみたいアレコレ』をテーマに総合内科・益田医師が質疑応答を行いました。今後も毎月開催いたします。

おしごと相談会 ユニクス鴻巣



2023年7月22日(土)23日(日)

3年ぶりの地元開催!!

子育て中やブランクのある方、未経験だけど医療系の仕事に興味のある方が多数集まりました。今後も定期的に開催いたします。開催日等はホームページやSNSでお知らせいたします。

新人看護師集合研修 当院新南棟 4F 会議室



2023年5月～毎週木曜午後

全員が集まり、知識と技術を習得する

入職後は約1カ月かけて看護の基本的な知識や接遇を学びます。この間は、同期との仲間作りも目的の一つです。その後は各部署に配置され、毎週木曜日の午後が集合研修となります。研修で同期を相手に演習してから、病棟で先輩と一緒に実施する。この繰り返しで1年間技術を学んでいきます。注射・点滴の研修は入職3カ月後、初めての夜勤は入職6カ月後以降。ゆっくり、じっくりのやさしい新人研修が当院の特長です。

